

Title	<紹介>信多純一・川崎剛志著『現代語訳 完本 小栗』
Author(s)	箕浦, 尚美
Citation	語文. 2015, 104, p. 75-75
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/70963
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

信多純 川崎剛志著 『現代語訳 完本 小栗

悩と救済を哀切な調子で語った説経の代表作で、「さんしょう太 、流転、 「小栗」は、 再生、そして成神の物語である。壮絶な人の生と苦 貴種にして放埓な勇者小栗と照天の 箕 浦 尚 恋愛と 美

別離、

経

夫」「刈萱」「しんとく丸」「愛護の若」等

(異説あり) とともに

五説経の一つに数えられている。」(信多純一・川崎剛志著『現代

しむ 絵巻の挿し絵については、 のが、読者を作品世界に深く引き込んでくれるように思われる。 図 又兵衛作の壮麗な絵巻であり、本書にも三十七図(うち見開き四 宮内庁三の丸尚蔵館所蔵絵巻『をくり』を底本とし、遺文を補っ 二〇一二年)に続いて、「現代語訳」「完本」を冠した同型の小型 語訳 て現代語訳したものである。 本として刊行された。本文は、「説経正本の古形をほぼ完備する」 (口絵を除く)であるのは残念だが、かえって、物語本文そのも 本書は、 口絵一図 完本 小栗』「解説」 栗判官と照手姫 信多純一著『現代語訳 が収録されている。それらが小さなモノクロ図版 別途、 伝岩佐又兵衛画』 宮内庁本は、十五巻から成る伝岩佐 太田彩監修『ミラクル絵巻で楽 完本 浄瑠璃物語』 (東京美術 (和泉書院、

> 受けた川崎剛志氏によるもので、氏は、 精確なものである。 (岩波書店、 九六八年)、 一九九九年)の緻密な本文校訂 また、 新日本古典文学大系 解説は、 療養中の信多先生から依頼を 先生の高弟にして熊野信 『古浄 ・注釈を経 瑠 璃 て成った 説 集

仰・説話・本地物研究の専門家である。

研究する者にも有効な道標と言えるだろう。 訳で初めて『小栗』に接する読者のみならず、 づらい部分もあるが、そうした点に向き合っての解説は、 地物における因果応報や勧善懲悪には、 までも善行へと転じ、末繁盛に導いた」点を説明する。 はそれを引く営為に関わった人々の薄っぺらな当座の虚言や打算 が説かれている。例えば、前者では、「土車という「因果の車」 の特性として「因果応報の内実」「本地物における受苦」 その解説では、 説経の歴史と研究史の概略とともに、 現代の感覚からは共感し 説経や周辺文芸を 説経や本 『小栗 現代語

参詣路には「小栗街道」「車塚」などの地名が与えられている。 の寺社には小栗・照天の事績や遺品が伝えられ、 に、文芸の枠を超えて〈史実〉としても生き続けている。 芸・芸能の中にも生きている。 『小栗』は、スーパー歌舞伎・宝塚歌劇・漫画など、 が、 研究者にも、 和泉書院、 二〇一四年、 般にも、広く読まれることを期待する。 一方、本書解題で指摘されるよう 一一九頁、二,〇〇〇円 古代以来の熊野 現代 ゆかり の文

(みのうら・なおみ 甲子園大学専任講師 年、

八〇〇円)

によって鑑賞すると良いだろう。 信多純一氏による『説経正本集』二

(角川

-書の現代語訳は、